

学級生活のルールと 子どもの不満

新採用なのに、いきなり学級担任…。
子どもたちが悪いことをしても、なん
だかしかれないんです…。



ぼくもそういう時期があったけど、
いくつかコツがあるんだ！

【学級生活のルールを示そう】

新採用の先生は、4月のうちに学級生活のルールを明確に示しましょう。そして、子どもたちに不満をもたせないようにすることが大切です。行き当たりばったりにやっている、あとでツケが回って来ます。

【すつと浸透するルールの提示の仕方】

「黄金の3日間」という言葉があります。新学期が始まってから最初の3日間のことです。できるかぎりこの間に、ルールを提示します。例えば給食のおかわりのルールだったり初めての給食の時に、そうじのルールだったり初めてのそうじの寸前に提示します。朝の会の仕方、授業の始め方、終わり方、返事の仕方、係の仕事…いろいろあるので、初めは先輩の先生のまねをするのがよいでしょう。翌日の1日の生活を考え、提示するルールを確認・準備しておきます。

提示する時、口で説明するだけではわかりにくいので、場面を想定してひとり芝居をしてみたり、実際にやりながらひとつひとつ確認していくほうが低学年では特によいでしょう。社会人経験のある人は、「大人はこうやってるんだよ。」と言うと説得力があります。教室掲示にするのも有効ですが、学期初めは忙しいので、時間をかけすぎないようにしましょう。掲示は後からでもできます。まわりの先生からもらうという手もあります。



中学年以上ならば、抽象的な概念を使って大丈夫です。「他人にめいわくをかけない」「個人の時間とみんなの時間を区別する」「状況を考えて行動する」など、ひとつスローガンのようなものをつくっておけば、いろいろな場面で使うことができます。ただし、高学年になると子どもも理論武装してきます。抽象的な概念はしっかり考えて使いたしましょう。

クラス替えの後の学年では、前のクラスのルールをひきずる子が多いはず。特に初めてのクラス替えの後はその傾向が強いのです。ですから、前のクラスでは、どういふふうにやっていたのかを聞きながら、ひとつひとつ決めていきましょう。「いろいろなやり方があったんだね。どのやり方もすばらしいけれど、ひとつに決めないといけない。とりあえず、先生が決めるね。何かこまったことがあったら、ルールを変えようね。」こう言うこ

それいけ!

新米先生

とで、前のクラスのやり方から、だんだんとはなれていきます。

クラス替えをしていない学年ならば、前の先生のやり方を、まずは真似してみましよう。子どもたちの体にしみこんでいるルールが一番です。不便なところだけ、変えていけばいいのです。

【子どもの不満がたまらないしかり方】

せっかくルールを決めても、やぶられてしまう時があります。そういう時はどうすればよいでしょう？

子どもたちの不満がたまらないように、注意しなければなりません。行き当たりばったりにしていると、「あの子だけしかられなかった!」「同じことをしても、きびしくされなかった!」と不満がたまります。「かわい子子どもたちをしかるのは、気がひけるなあ」といった感情にまかせず冷静な判断基準でしかりましょう。

注意すべきかどうかの判断のポイントのひとつは、ルールをやぶっている子どもを、まわりの子の立場で考えることです。まわりの子に迷惑をかけるようなルールやぶり（たとえば、そうじさぼり）は、みんなの前で注意する必要があります。ただし、くどくど言う必要はありません。「〜しては、だめだよ。」「ごめんなさい。」「次から気をつけようね。」「最初はこれで充分です。」「ああ、この先生はしっかり注意してくれる」と、まわりの子も

安心です。

ルールをやぶった子のフォローも大切です。たとえば休み時間が終わったのに、ゆっくり戻ってきた場合を考えましよう。「今日は10分かかってしまったね。明日は10分よりも早く戻ってこれるかな。」「うん。」「次の日、10分以内にもどってこれた場合は、「よくできたね。昨日よりも成長したね。」とほめます。先生のおかげで進歩が実感できる瞬間です。まわりの子も、その子を見る目が優しくなります。「先生は〇〇くんのことを、こまらせようとしているんじゃないよ。〇〇くんのごとがスキなんだよ。」と愛情を（ちよつと露骨なぐらい）示してあげると、いつも注意されているようなやんちゃな子は、先生のことを信頼していきます。

【自分のタイプと課題を知ろう】

自分がどんなタイプの教員なのかを知りましよう。自分がきびしいのか/優しいのか? 論理的なのか/感覚的なのか?をつかむと、おのずと課題も見えてきます。きびしい人は、優しい言葉かけを心がけ、優しい人は、時にはきびしくできるようにします。声色、表情、動作、など自分に「幅」をつくっておきましよう。

☆ルールをやぶる子について、さらに理解をすすめたい時は、この本がおすすりめです。

家本芳郎 編著 『どの子も伸びる 小学校どう指導する 問題をかかえた子 100事例』

ひまわり社 2003

新採用の先生を支える先生へ

新採用の先生は、先の見通しがたちにくいので、どうしても行き当たりばったりに注意・指導してしまうことがあります。そうすると子どもの不満がたまります。注意するばかりだと、「きびしすぎる」と不満が出るし、注意しないと「注意してくれない」と不満が出ます。

このことは、授業の進度や、教室掲示、事務処理などと違って、まわりの先生からは見えにくいものです。ですから、新採用の先生が上手に指導・注意できているのかどうか、注意深く見守ることが必要です。新採用の先生が、子どもと保護者から信頼をかけることができるように、サポートをお願いします。

